

氷高アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動																																	
重点課題	自主的学習態度の育成と授業の改善																																	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒(平成21年度、普通科) <table border="1" data-bbox="411 353 1358 439"> <tr> <td>11月調査(継続)</td> <td>1年 44%</td> <td>2年 23%</td> <td>3年 63%</td> <td>全学年 46%</td> </tr> <tr> <td>11月調査(継続)</td> <td>1年 71%</td> <td>2年 55%</td> <td>3年 76%</td> <td>全学年 69%</td> </tr> </table> 週末課題や小テストによる計画的・自主的な家庭学習習慣の定着、互研授業の実施等による授業の質の向上、自然科学コースの探究活動の充実を図り学力向上に努めている。 				11月調査(継続)	1年 44%	2年 23%	3年 63%	全学年 46%	11月調査(継続)	1年 71%	2年 55%	3年 76%	全学年 69%																				
11月調査(継続)	1年 44%	2年 23%	3年 63%	全学年 46%																														
11月調査(継続)	1年 71%	2年 55%	3年 76%	全学年 69%																														
達成目標	① 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒の割合 (普通科対象)		② 互研授業の実施																															
	60%以上		1人年間2回以上																															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部、特活部、学年との連携を密にし、進路統一HRなどを取り入れながら早期に進路目標を立て、その実現に向けて学習に取り組むよう指導する。 学習計画表をもとに、こまめな面接指導等を行い、適切な助言を与え、生徒の家庭学習を支援する。 計画的に週末課題や小テストを実施し、家庭学習習慣を定着させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に1回、2学期中に1回、互研授業を実施して、授業の質の向上を図る。 学習シラバスを作成するとともに、教科部会を開催し指導法及び内容の検討を行う。 正味50分の授業確保に向けて、引き続き生徒と教員が共に努力する。 																															
達成度	32% (10月調査) 44% (11月調査)		実施率100% (2期間)																															
具体的な取組状況	<p>10月調査(継続) (10/21~10/27)</p> <table border="1" data-bbox="432 1198 860 1323"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>20%</td> <td>7%</td> <td>68%</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>55%</td> <td>21%</td> <td>74%</td> <td>49%</td> </tr> </table> <p>11月調査(継続) (11/21~11/27)</p> <table border="1" data-bbox="432 1400 860 1525"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>36%</td> <td>17%</td> <td>78%</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>63%</td> <td>60%</td> <td>82%</td> <td>68%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 1、2年生とも学習時間が例年に比べて極端に少ない。調査時期を中間考査直後に変更した影響もあろうが、期末考査直前については条件が同じことから、詳細な原因を学年とともに究明していきたい。 			1年	2年	3年	全体	平日	20%	7%	68%	32%	休日	55%	21%	74%	49%		1年	2年	3年	全体	平日	36%	17%	78%	44%	休日	63%	60%	82%	68%	<ul style="list-style-type: none"> 互研授業実施期間 [1学期] 5月31日(月)~6月4日(金) [2学期] 11月8日(月)~12日(金) 1学期は、授業担当者が指定する授業を、2学期はその期間中のすべての授業を公開する形で実施した。 授業を指定した1学期の方が参観する先生の数が多かった。(教室の窓等を開けて授業を実施していることも関係があると思われる)若い先生方も増えており、有効に活用されている。 	
	1年	2年	3年	全体																														
平日	20%	7%	68%	32%																														
休日	55%	21%	74%	49%																														
	1年	2年	3年	全体																														
平日	36%	17%	78%	44%																														
休日	63%	60%	82%	68%																														
評 価	D		A																															
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も継続して取り組むとともに、学習時間の増加を目指して学年などとの連携を図りながら工夫していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 1、2学期ともすべての授業を公開する形で実施したい。また、参観後に意見交換の場を何らかの形で取り入れたい。 																															

(評価基準) A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

氷高アクションプラン - 2 -

重点項目	学習活動																																	
重点課題	専門学科における魅力ある教育活動の推進																																	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校では、農業科学科、海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科の4学科3学級が新設され、商業科(2・3年)とともに、専門的な知識・技術の習得と体験的学習の重視、学習意欲の向上、資格取得を通じた目的意識の醸成、進路実現などに向けた取り組みについて一層の充実を図る必要がある。 ・商業科では、計画的な資格取得を指導しており、全商1級検定合格者数の平均延べ人数は33名(過去3カ年平均)となっている。 																																	
達成目標	① 専門学科で学ぶ満足度 80%以上	② 資格検定1級合格者数(延べ人数) 35名以上																																
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の学習や「HIMI学」等を通じて、専門教科を学ぶ意義を体感させ、学習意欲の向上につなげる。 ・専門技術者等による講習会や校外学習、補習や小テスト等の実施により、効果的な指導方法の工夫改善に努める。 ・生徒各自の能力や適性、進路希望等を把握し、3年間を見通した継続的な指導により、資格取得や進路実現に向けた目的意識を高めさせる。 																																	
達成度	84%	75名																																
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・農業科学科では、新潟大学、富山県立大学、東京農業大学の先生を招聘し、先進的な農業・環境分野について学習した。更に、NPO法人、農業生産法人等の団体や、一流レストランシェフ、篤農家との交流や、ボランティア活動の機会を設け、生徒の農業・環境分野への関心が高まった。資格取得に関しては、危険物取扱者試験丙種合格率が80%で、2年次中には乙4類合格率100%を目指している。 ・海洋科学科では、東京海洋大学、東京農業大学アクアバイオ科との連携講座や、地域の漁業、水産加工関連団体から講師を招いてのHIMI学連携講座を実施した。生徒はこれら学習や海岸清掃等の地域ボランティア活動を通して、専門分野への関心を高め、奉仕の精神を学んだ。資格取得に関しては、危険物取扱者丙種12名、ワープロ検定3級16名、2級1名合格し、3月には食品技能検定I類全員合格に向け取り組み中である。 ・生活福祉科では富山短期大学等より、食物・保育・福祉に関する専門講座を実施したり、細越のハトムギ生産組合を訪問し地域の食材を知りその活用法を研究した。また、保育実習や特別養護老人ホームでのボランティアを実施し専門教科への関心を高めた。資格取得に関しては、食物調理検定3級に38名が合格した。 ・商業・ビジネス科では、チャレンジショップの企画・運営や検定に向けた特別補習を実施した。検定結果は、次表のように過去の実績を大きく上回った。 ・これらの取り組みにより、「専門学科での学習は、自分の将来にとってためになる」と答えた生徒が95%を占め、高い満足度を得ている。 <p style="text-align: center;">全商検定1級取得状況 (H23年3月14日現在)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>簿記</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>情報処理(ビジネス情報部門)</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ワープロ</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>商業経済</td> <td>12</td> <td>2</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>珠算・電卓(電卓)</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>			2年	3年	計	簿記	24	4	28	情報処理(ビジネス情報部門)	1	6	7	英語	0	1	1	ワープロ	7	8	15	商業経済	12	2	14	珠算・電卓(電卓)	16	8	24	計			75
	2年	3年	計																															
簿記	24	4	28																															
情報処理(ビジネス情報部門)	1	6	7																															
英語	0	1	1																															
ワープロ	7	8	15																															
商業経済	12	2	14																															
珠算・電卓(電卓)	16	8	24																															
計			75																															
評 価	A	A																																
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒各自の適性や進路希望に応じ、3年間を見通した継続的な指導方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな指導を継続し学習の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、さらに多くの1級科目に挑戦するよう指導方法の改善を図る。 																																

(評価基準) A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

氷高アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援																						
重点課題	3年間を見通した進路指導の取り組み																						
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力・適性をつかみきれていないため、進路目標の設定が遅れがちである。(本年4月調査では、未定の生徒が1年で27人、2年で4人いる。) 第3学年進路希望状況(本年4月調査) <table border="1" data-bbox="411 434 1358 557"> <thead> <tr> <th></th> <th>大学</th> <th>短期大学</th> <th>専門学校</th> <th>就職</th> <th>その他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通科</td> <td>121名</td> <td>9名</td> <td>21名</td> <td>3名</td> <td>3名</td> <td>157名</td> </tr> <tr> <td>商業科</td> <td>12名</td> <td>1名</td> <td>7名</td> <td>18名</td> <td>1名</td> <td>39名</td> </tr> </tbody> </table> 学習する習慣が十分に身につけていない傾向があるので、学習習慣の定着に努めている。 進路意識及び学習意欲を高めるための活動や面接の充実に努めている。 			大学	短期大学	専門学校	就職	その他	計	普通科	121名	9名	21名	3名	3名	157名	商業科	12名	1名	7名	18名	1名	39名
	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	計																	
普通科	121名	9名	21名	3名	3名	157名																	
商業科	12名	1名	7名	18名	1名	39名																	
達成目標	① 4月の第1志望校種合格率 90%以上	② 就職率 100%																					
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の向上に向けて、3年間を見通した進路指導体制を確立する。 1年次 「進路講話」「職業人講話」「文理選択」 2年次 「大学訪問」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」 3年次 「進路ガイダンス」「進路講話」「オープンキャンパス」「就職説明会」「会社訪問」 一人ひとりに応じた面接指導を行うため、年間計画の中で面接週間を位置づけ、生徒1人あたり、1・2年は年間3回以上、3年は年間5回以上実施する。 小テスト、週末課題の提出、補習(第3学年)を計画的に実施し、学力補充と基礎学力の定着を図る。 H・R時の進路指導を充実させるため、「進路ノート」を活用し、各学期に統一H・Rを設定することにより進路研究を進める。 																						
達成度	80% (3/23現在)	100% (3/23現在)																					
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 4月の第1志望校種の合格率 80% 各学校の合格者数(延べ数) <table border="1" data-bbox="421 1319 762 1554"> <tbody> <tr> <td>国公立大学</td> <td>33名</td> </tr> <tr> <td>私立大学</td> <td>145名</td> </tr> <tr> <td>国公立短大</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>私立短大</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>専修学校</td> <td>46名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table> 	国公立大学	33名	私立大学	145名	国公立短大	4名	私立短大	28名	専修学校	46名	その他	3名	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者26人、就職内定者26人 前年度から9月の内定が容易ではない状況になっている。資格取得を奨励するとともに、就職希望者には早くからガイダンスを行い、個別に書類の書き方や面接指導を行うなど丁寧に対応した。 									
国公立大学	33名																						
私立大学	145名																						
国公立短大	4名																						
私立短大	28名																						
専修学校	46名																						
その他	3名																						
評 価	D	A																					
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の向上に向けて、一層取り組みを充実させる。そのため、ホームルームや総合の時間を有効に利用する。また、学力の定着を図るため低学年の早い時期から指導に力を入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職試験合格のため、早くから意識を持たせ資格取得や学業及び生活面での指導を徹底する必要がある。また、企業とも情報交換を積極的に行い、生徒との面接に活かしていきたい。 																					

(評価基準) A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

氷高アクションプラン - 4 -

重点項目	学校生活																																												
重点課題	品性を高めあう態度の育成																																												
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の品性を高めあう活動として、夏・秋の「さわやか運動」や校風委員会による早朝挨拶運動(平成21年度は年間51日間)を行っている。 服装指導は、各学期2回全校集会時に服装検査を実施している。 清掃は毎日行い、さらに月に1度「クリーンアップディ」を設定し、清掃の徹底及び美化意識の向上を図っている。 																																												
達成目標	① 氷高さわやかディへの参加者 年間400名以上	② 清掃徹底の日 年間12回以上																																											
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 「氷高さわやかディ」と称し、毎月1日、15日を基準に、朝の挨拶運動を実施(年間13回)する。 「氷高さわやかディ」の活動は、1・2学年で年間1回各クラス単位で参加する。 服装指導については、違反者の事後指導をねばり強く行うとともに全職員が統一性・一貫性のある指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回「クリーンアップディ」を行い、全校生徒に清掃の徹底を促す。 生徒保健委員会と生徒ボランティア委員会が協力し、学期に1回校舎外の環境美化にあたる。 校舎内の「拭き掃除」を定期的に取り組み、清掃の仕方を改善し、床掃除の徹底を図る。 																																											
達成度	496名	年間19回																																											
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 朝8:10～8:30まで、次の通り、挨拶運動を実施した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>実施日</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>15日</td><td>21H</td></tr> <tr><td>5月</td><td>15日</td><td>22H</td></tr> <tr><td>6月</td><td>1日</td><td>23H</td></tr> <tr><td>6月</td><td>15日</td><td>24H</td></tr> <tr><td>7月</td><td>15日</td><td>25H</td></tr> <tr><td>9月</td><td>15日・24日</td><td>11H</td></tr> <tr><td>10月</td><td>19日</td><td>12H</td></tr> <tr><td>11月</td><td>15日</td><td>13H</td></tr> <tr><td>12月</td><td>15日</td><td>14H</td></tr> <tr><td>1月</td><td>14日</td><td>15H</td></tr> <tr><td>2月</td><td>15日</td><td>16H</td></tr> <tr><td>3月</td><td>15日</td><td>17H</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 参加者数は、合計496名であった。 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>2年生</td> <td>194名</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>302名</td> </tr> </tbody> </table>	月	実施日	担当	4月	15日	21H	5月	15日	22H	6月	1日	23H	6月	15日	24H	7月	15日	25H	9月	15日・24日	11H	10月	19日	12H	11月	15日	13H	12月	15日	14H	1月	14日	15H	2月	15日	16H	3月	15日	17H	2年生	194名	1年生	302名	<ul style="list-style-type: none"> 4・8・3月以外の毎月「クリーンアップディ」を実施した。保健委員と保健厚生部職員が清掃後の点検を実施し、清掃が不備な箇所の担当者へ改善を促した(9回)。 学期毎の始・終業式に大掃除を実施し、保健委員を中心に、清掃用具の点検やダスキンモップの交換を行うなど、校舎内外の環境整備に努めた(6回)。 体育大会後や学校祭後の始業前に清掃を実施した(2回)。 夏期休業中にワックスがけを行った(2回)。 モップ絞り機を買い増し、コンクリート製廊下を中心に、水拭きを徹底した。
月	実施日	担当																																											
4月	15日	21H																																											
5月	15日	22H																																											
6月	1日	23H																																											
6月	15日	24H																																											
7月	15日	25H																																											
9月	15日・24日	11H																																											
10月	19日	12H																																											
11月	15日	13H																																											
12月	15日	14H																																											
1月	14日	15H																																											
2月	15日	16H																																											
3月	15日	17H																																											
2年生	194名																																												
1年生	302名																																												
評 価	A	A																																											
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の生徒が「氷高さわやかディ」に参加、約8割の生徒が挨拶を交わしている。根気よく挨拶の大切さを呼びかけ、元気よく挨拶を交わす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> アスタイル製の廊下用の掃除用具を装備し、さらに校舎内の「拭き掃除」を定期的に取り組むなど、清掃の仕方を改善し、床掃除の徹底を図る。 																																											

(評価基準) A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

氷高アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動	
重点課題	自ら学ぶ力を身に付ける活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校における1年次の「HIMI学」の開設に伴い、地域の企業や研究団体、大学等との連携を図り、最先端のもの見方や考え方に触れ、自分の将来や生き方、社会との関わりについて意識を高める活動を推進する必要がある。 ・地域と連携した活動への参加を積極的に進めている(参加者：H20年度200名、H21年度268名)が福祉施設や地域の奉仕活動への自主的参加者は少ない。 ・H19年度の生徒一人あたり図書の出冊数は1.5冊(H20・21年度は図書データベース化のため貸出停止)であり、高校生の読書量としては不十分である。 	
達成目標	① 地域交流・体験的活動等への参加 ・体験的・学究的活動 2回以上 ・地域交流活動等参加数 280名以上	② 生徒一人あたりの年間図書貸出冊数 2冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「HIMI学」において、生徒の興味や関心等に応じた講座の選択、体験的・学究的な活動、専門技術者等による講習会、他学科との合同学習等を通して自ら学ぶ力を身に付ける。 ・校内に地域交流活動等の掲示板を設置するとともにボランティア活動推進委員会をはじめ、農業・水産・家庭の各専門学科の生徒クラブも参加し、地域交流活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用のリエンションの実施、読書会や教養講座の開催、学級文庫の充実、「図書だより」の発行、新着図書案内の発行等を通して、読書に興味・関心を持たせる取り組みを工夫する。 ・図書に親しみを持てるよう、図書館を利用した各教科の授業を積極的に推進する。
達 成 度	体験的・学究的活動 3.4回(1講座当り平均) 地域交流活動等参加数 249名(3月11日現在)	1.0冊(3月11日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の全学科で14講座を展開する「HIMI学」では、各講座とも外部講師による講演やフィールドワークを少なくとも年間2回以上実施し、2月に全体発表会を開催する。 ・農業・水産・家庭クラブやボランティア推進委員会を中心に活動した。 [地域交流活動への参加者数] 海岸清掃 40名 漁港清掃 19名 通学路清掃 30名 保育園訪問 39名 環境保全活動 38名 福祉施設等イベント補助 83名 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書会・教養講座を年2回実施、学級文庫の設置(1年教室)、「図書だより」月1回の発行などを通して、読書活動の推進に努めた。 ・国語の授業にリエンションを行うなど読書指導の充実に努めたが、総合的な学習の時間を十分に活用できないなどの制約があり、年間の図書貸出し総数は658冊(生徒一人当たり約1.0冊)であった。 *貸出し冊数には学級文庫を含まず
評 価	B	C
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「HIMI学」では、今後も外部講師の活用やフィールドワークの実施など魅力ある教育活動の実践に取り組んでいきたい。 ・ボランティア活動は、一部の生徒に偏ることなく、掲示板などを通じて広く一般生徒への参加を呼びかけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームの時間での全クラスの図書館の割り当て、授業での積極的利用の促進、リエンションの時間の確保等で生徒が図書館へ足を運ぶ機会を増やし、図書に親しむ一助としたい。

(評価基準) A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

氷高アクションプラン - 6 -

重点項目	家庭との連携	
重点課題	保護者との連携の充実、PTA活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 「氷高ほっとメール」の参加者が徐々に拡大され、5月現在の利用者は、約48%である。また保護者アンケート(H21年度)では、学校の教育活動について、86%が満足しており、学年研修会や学期末の保護者会は参加者が多い。一方では、PTA総会や各種委員会主催の活動への参加は15%にも満たない状況である。 	
達成目標	① PTA活動参加率 60%以上	② 「氷高ほっとメール」への参加者 350名以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会をはじめ、保健体育委員会主催研修会や年2回のさわやか運動等において他の分掌との連携を図り、より多くの保護者が参加するPTA活動となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の活動状況等を保護者にリアルタイムに届ける「氷高ほっとメール」への参加をPTAの諸会合において呼びかける。「氷高ほっとメール」の内容の充実を図る。
達成度	43%	356名(3月23日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のPTA研修会では、参加率が58～71%と開きがあったものの、積極的な参加が見られた。一方、PTA総会の参加率は15%と相変わらず低い。このため、同時開催の役員会では、参加者が少なく開催できない委員会もあった。 夏・秋の年2回実施のさわやか運動は12%の参加率であったが、参加者の実数は80名と年々増加している。 なお、PTAと保健厚生部の合同開催の「食育講座」は、全参加者41名のうちPTAの参加は17名と少なかったが、実施後のアンケートでは、多くの参加者から「ぜひ多くのPTAの方にこの企画を紹介してほしい」との意見を得るなど好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の参加者数は260名であり、96名と大幅に増加している。因みに参加率は、1年で59%、2年で55%、3年で39%であり、緊急時の連絡におけるこのシステムの有効性が、次第に保護者に理解されつつあるといえる。 送信回数は現在31回で、昨年度と同程度である。内容的に見た場合、県および本校からの不審者情報、鳥インフルエンザの発生に対する学校の対応、大雪に関わる学校の対応、学校行事に関わる情報(休業・考査・文化祭・発表会など)などで、単に不審者情報・緊急連絡のみならず、学校行事に関する多様な情報の送信をおこなった。 1回に複数の情報を送信するケースが多く、読みづらかった事が反省点である。
評 価	C	B
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭との連携の一層の充実を図るため、PTA総会の開催に併せ、例えば講演会や授業参観を企画するなど、多くの方々に参加いただけるよう工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加数は着実に増加しているが、今後とも、入学者説明会などで保護者に有効性をご理解いただき参加者を増やすことで、緊急時により多くの生徒への連絡が迅速・的確に行えるようにしたい。

(評価基準) A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった